ふれあい通信

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長　山田久男
編集　澤田　卓

九月史跡ウォーク延期

九月一九日実施予定の歴史ウォーク「明智光秀と坂本城址…西近江路を歩く」は下見も含め再度延期することにしました。

九月のウォークについては、実施する手はずで進めてまいりましたが、度々の『緊急事態宣言』が九月一二日迄再び発令されました。期間中が、下見と重なり、当協会の基本方針により、中止のやむなきに至りました。

緊急事態とはいえ、昨年より再三再四中断が続いたことは大変残念な事と思いますが、この状況ご推察のうえ何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

会員・賛助会員の皆様には大変な時期ですが感染に十分ご留意いただき、ご協力をお願い申し上げます。なお、ご意見を含めたご提案がありましたらメール等で山田会長までご送付ください。

メール先　yamahisa70576@wave.plala.or.jp
問合せ先　☎＝075-593-9387（ファックス共）

次回史跡ウォーク

●日時　一〇月一七日（日）受付九時～九時半
●集合　京阪石坂線　坂本比叡山口駅前
●コース　生源寺～西教寺（指差説明）～聖衆来迎寺～旧比叡辻～酒井・両社神社～坂本城跡～東南寺～明智塚～坂本城址公園～盛安寺～高穴穂神社～京阪穴太駅（解散）
＊下見は一〇月三日（日）と九日（土）です

花の季節

今年はコロナ禍で自粛や干天の慈雨には程遠く、豪雨に苛まれた波乱に満ちた夏でしたが、暦をめくればいよいよ花を愛でる季節の到来です。まだ緊急事態は継続しますが、京都を満喫できるこの時期をあだや疎かにすることなく爽やかな前途に向かい歩き出しましょう。

面白発見

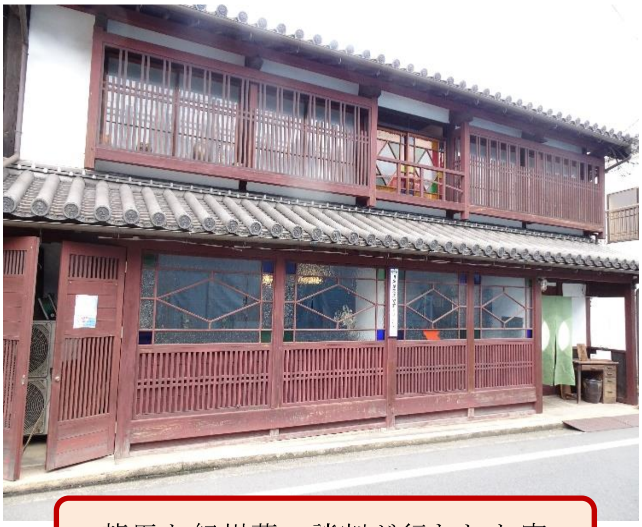
仁丹の地名表示板

チーム葵　古谷　正弘

広島福山の鞆の浦で、ボランティアガイドから、京都で最近希少価値が増しているあの仁丹の地名表示板がｆｕｌｌに活躍していることを知りました。

鞆の浦は、仁丹の創業者森下博氏の出身地で、彼は仁丹で得た利益を社会に還元し、鞆町内には銅像も建っているそうです。表示板が設置されたのは平成二六年で、全部で一五枚。

ちなみに、表示板のかかっている建物は、いろは丸事件で坂本龍馬と紀州藩が賠償金の談判をした場所だそうで、鞆の浦には、神功皇后から朝鮮通信使まで、海上交通の要所にあったことを示す様々な人が訪れています。



龍馬と紀州藩の談判が行われた家

亀岡の水害

チーム雅　花崎喜代子

今から七〇年前の七月、私が小学三年か四年くらいの頃だった。

朝からものすごい雨が降っていた。学校へ行くと雨はやんだが、授業はないから帰っていいと言われ、家に帰った。昼頃になって号外をまきながら車が走っていた。号外を拾うと亀岡町（現亀岡市）で大きな池が決壊し、篠村（現亀岡市篠町柏原…かせばら）で大洪水が発生し、多くの家が流され、七五人の命が失われた。

亀岡平和池は、一九四六年終戦直後の農地や山林は荒廃し、年谷川の水害も相次ぐ中、食糧増産と防災を兼ねた「防災溜池」を造ることが決まった。一九四九年に完成したが土で出来た池だった。

一九五一年七月、想定外の雨に耐えられず池は決壊した。

この大惨事はどうして起きたのでしょうか。あの頃を思い出しながら、新聞を何度も読み返して見えてきたのは、戦後の混乱期とは言え、工事も完成後の池の管理にも杜撰さが見えてきた。

一九五五年に建立された矢田天満宮（亀岡市上矢田町）の水難記念碑には「冀（こいねが）ハクバコノ災変ヲ世ニ傳エ今後ノ災イノ強イ柵（しがらみ）トナルコトヲ念ジル」と平和池水害への先人の思いが刻まれている。

今、亀岡市の中でどれだけの人々が、この災害を知っているのでしょうか。こんな悲惨なことが二度と起こらないためにも風化させてはならない。でも毎年のように各地で悲惨なことが起こっているのが現実です。

平等寺の饒速日の思い出

チーム雅　今井　満

天理から山の辺の道を大神神社まで行って、三輪そうめんを食べてJR三輪駅から自宅に帰る方が多いようだが、惜しい。

あとほんの百メートルも歩いて貰えば、平等寺がある。寺伝によれば聖徳太子が世の中の平和と安寧を念じ、三輪明神に祈願して、賦後十一面観音を彫って、寺を建立したと謂れる。ただ今は国宝の聖林寺の十一面観音を模写したものが、本尊である。

また面白いのは 関ヶ原の戦いに破れ敵中突破した島津義弘が、七十日ほどこの寺で匿われていたが、住職から銀千貫借りて、堺で船を買い薩摩に帰国したと伝えられている。

あとこの寺で思い出深いのが、三十年前になるが、歴史本に平等寺の秘仏は、饒速日の顔を写しており、年に一度八月に御開帳があるとあって行った事がある。

この頃、記紀の神武東征は本当なんだろうかと真面目に考えていた時期で、神武より先にヤマトの降臨した饒速日の顔を見れば、もしかして出自がわかるような気がしていた。

寺の山門を潜って、本堂にまでいくと白い法衣を着た若い男が仰向けに寝ていた。声を掛けると副住職で、早い話住職の息子であったが、どうも神仏の祟りは信じてなくて、歴史の解明には興味を持たれた。

そこで訪問の目的を告げると、「それならゆっくり見てください」と逗子の近くまで勧めてくれた。秘仏は８０センチほどで、平安時代に復刻された説もあり、見た限り法隆寺の百済観音に似て、どうも飛鳥時代の作らしくて、神代の匂いは嗅げそうもなかった。

『驚き、桃の木、明治の記』⑥徳川慶喜（前編）

チーム葵　今川博明

今回はＮＨＫの大河「晴天を衝け」が放送されているので、渋沢栄一が幕末に仕えた一橋（徳川）慶喜の紹介です。

彼は皆さんも良くご存じの好奇心旺盛で趣味の多い人でした。子供の頃から武士の素養として学んだ弓、能楽、馬術、日本画が得意でしたし、静岡に移ってからは写真と狩猟、鷹狩も始めています。弓術は毎日一五〇本射るのを日課としていました。しかし、晩年医者にやり過ぎを指摘され一〇〇本に減らしましたが、一〇〇本射るのに三時間もかかったといいます。また写真も好きで肖像写真は多く残っています。駿府城公園の濠では、ウナギ釣りまでしていたといいます。「けいきさんの自転車」も有名で、明治一〇年から一二年頃に静岡県内で初めて自転車に乗ったとされます。静岡は坂が少なく、風も弱くて雪もほとんど降らないので、今では全国的にもめずらしいほど貸し自転車が普及し、庶民の利用も盛んだそうです。彼が静岡に自転車文化を与えた影響は大きいといえるでしょう。

面白いエピソードには、自転車に乗っていて、美しい女性に見とれてしまい電柱にぶつかってしまったこと。またサイクリングが好きだが、自転車の操縦が下手だったので、周りに家臣たちが一緒になって走っていたらしい。もちろん家臣は自転車無しで走っていた。明治２０年の新聞には、「慶喜公が運動のため、自転車を乗り回されている」との記述がある。彼が晩年を過ごした屋敷跡「浮月楼（ふげつろう）」には、同年のものとされる前輪が後輪の数倍大きい「ダルマ型自転車」に乗る様子を描いた絵が伝わっているそうです。まだまだある慶喜のエピソードは次回で・・・。

京都の地味な話

「上京のへんな名を持つお寺をいくつか」
（通称寺の会から）

チーム彩　奥西　不二

本来は○○山○○寺と呼ばれるところ親しみを持って通称名で呼ばれているのですが、その中には？？？と思われるお寺をいくつかあげてみましょう。

「鳴寅」　浄土宗　尭天山佛牙院報恩寺
（注：千本釈迦堂は大報恩寺です）

秀吉が虎の絵を持ち帰り聚楽第の床に飾ったが、夜中の鳴き声に眠れず寺にもどしたと、言う四明陶佾の描いた虎の絵がある。正月のみに公開される。撞かずの鐘は平安時代のもので、重文指定。黒田長政が亡くなった部屋と如水の位牌が有名です。

「猫寺」　浄土宗　本空山称念寺
（注：通称寺の会には所属してません）

江戸時代の初め土浦城主であった松平信吉の寄進で建立されましたが、信吉公が亡くなると疎遠になり、拝領された寺領も失い衰退しました。三代目住職の環誉上人は猫好きで、自分の食も削って大変可愛がりました。ある夜、愛猫が姫御前に化けて踊るのを見て、自戒をこめてその猫を追い出しました。夢枕に立った猫が予言したとおり武士が訪ねて来て亡くなった姫の供養をしたところ松平家と復縁し寺も栄えるようになったという猫の恩返しの伝承があり、今もペット供養のお寺として有名です。

（猫が伏した姿に刈り込まれた老松）

「茶くれん寺」　浄土宗　浄土院

秀吉が北野大茶の湯の下見にきた時、この寺に名水が有ると聞き茶を所望したところ庵主は茶の湯が未熟なため白湯をだした。何度も所望するが白湯しか出て来ないので**「この寺は〝湯だくさん茶くれん寺〟じゃ」**と名付けた。（豊公遺跡　ゆだく山茶くれん寺　浄土院）

「ひょうたん寺」　真言宗　竹林山宝寿院正光坊福勝寺

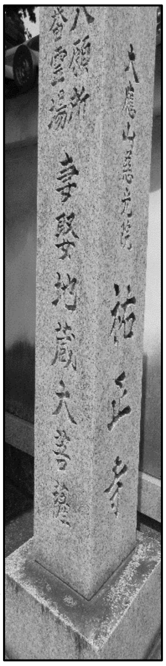
空海が伝えた「如意宝珠の修法」に由来し、宝珠を二つ重ねた形が瓢箪に似ていることから瓢箪がお守りになった。秀吉が武運を祈願し、千成瓢箪の旗印ができたそうです。節分の当日のみ瓢箪のお守りが授与されます。普段は非公開です。

「だるま寺」　臨済宗　法輪寺
（注：嵐山の法輪寺は十三詣りのお寺です）

達磨大使は禅宗の始祖で山門を入ると達磨だらけ。「七転び八起き」縁起ものだけどやり過ぎ感がありますね。「無尽庭（むじんてい）」と「キネマ殿」も見応えありです。

「つまとり地蔵」浄土宗　大応山慈光院佑正寺

「つまとり地蔵」と呼ばれる彩色も鮮やかな縁結びのお地蔵さんが祀られています。横の駐車場から地蔵堂の方へ入れます。



ほかに**「千本ゑんま堂」「釘抜地蔵」「椿寺」**がありますのでぜひ訪ねてみてください。通称寺の会事務局は**「椿寺」地蔵院**内にあります。詳細は「通称寺の会」で検索してみてください。また「椿寺」と「ひょうたん寺」は洛陽三十三所観音霊場の札所です。

おしらせ

★　第一七七回ウォーク　一一月二一日（日）
「逢坂関から山科・奈良街道へ」　チーム葵

東海道近江路は逢坂関から、山科の里へ、追分交差から奈良への旧街道を訪ねます。
京阪京津線　大谷駅集合

★　第一七八回ウォーク　一二月一九日（日）
「紫野周辺の史跡を訪ねて」　チーム華

紫野と呼ばれる船岡山東北一帯の近衛・後冷泉両天皇火葬塚や今宮神社、建勲神社、雲林院を訪ねます。
集合場所：未定

★　第四回　京都史跡ガイドの無料研修

- 十一月二三日（祝）一三時半～人まち交流館
- 十二月五日（日）九時半～
  一七八回の下見研修に同行します。

↑研修担当「今井」問合せ先 **090-5362-8981**

信濃紀行

二代目酔魔仙

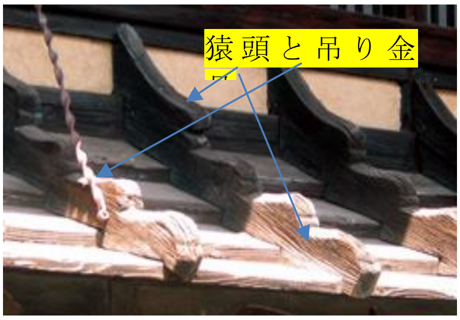
青春十八切符といえばベテラン切符と呼ぶべき六人乗継ぎ旅が始まった。この旅の良いところは計画無視の思い付き観光で突如、奈良井宿駅で下車した。

藤村の木曽路は山の中で始まる「中山道」の内の奈良井宿は江戸時代の風景を留める数少ない宿場町です。多くの観光宿場町は看板が建物化しているが、ここは比較的古い建物が現存する。

宿場入口鎮神社から奈良井宿を望む

観光協会に聞いたところ京の民家より飛騨高山の民家に近く大屋根が一階の屋根より前に迫出す出梁(だしばり)造が特徴で、一階小屋根裏の軒垂木の替わりに屋根上に猿頭(さるがしら)と呼ばれる庇押えのさん木や、隣家の境の袖うだつの彫刻等建築の好きな方には見所満載で至る所に湧出る水が旅人の喉を潤し、往時を偲ばせる街並みである。

コロナの影響か閑散とした宿場



松本城は見る場所・方向により様々な姿を見せてくれる。現在の天守は石川数正・康長父子が、関ケ原合戦後の築城ラッシュの時期に完成。その後、松平直政が月見櫓を増築した。

数回来城したが、今回の見学体制には驚いた。また天守に入るにも人数制限があり各階段の昇り降りも関係者に指示された。コロナ感染防止対策の影響を至る所で感じた。

急な階段(手すりが無いと登れない)で三階へ到達したら窓が無くおまけに天井も低い部屋があった。「この部屋は何ですか」と問われ答えられなかった。調べてみたところ、元は望楼式の三階建で、現在の建物(五重六階)は築城ラッシュ以後に流行する層塔式に改築されたもので二階の入母屋に屋を重ね五重の天守を構成したため二階の入母屋屋根(三階)の小屋裏を部屋に改装したものであった。

姫路城の派手やかさは無いが漆塗りの外壁は落ち着いた風情がある。(改修時に外壁の板塀に漆の痕跡を発見、以後墨塗から漆塗にされ、毎年秋に七二六㎡を五十日かけ塗替える。)

佐久間象山の海防上書

チーム雅　島田　宗人

象山は元治元年(一八六四)三条木屋町の寓居近くで刺客に襲われ落命します。その二十二年前、ペリーの来航に先立つこと十一年の天保十三年に『海防上書』を上げます。

上書の内容は①海岸の要所に大砲を配備②**オランダ**から技術を取入れ軍艦、武器を製造し海軍を編成③戦艦を購入して操舵技術を修得④外国への銅の輸出を禁じ自国で大砲を製造⑤西洋式大船を建造し江戸廻米を警備するなど、日本の海防を戦略的に論じた画期的なものとされました。

若いころより専ら儒学を学び、海に縁遠い信州松代藩士の象山が、どの様にして海防顧問に就いて直ぐに、東アジアの海防戦略を提起できたのでしょうか。

青年期の象山は、朱子学を修得する傍ら、上田の活文禅師に華音と中国事情を学びます。家を継ぎ出仕すると藩主の真田幸貫から、寛政の老中松平定信(幸貫の実父)の対ロシア外交や沿岸防備策を学びます。また松代藩真田家には幕閣より伝えられた『阿蘭陀風説書』の写しがありました。これ等に接することで海防思想の素地が芽生えていったはずです。

二十代の江戸遊学時には、渡辺崋山と交誼を結びます。彼の儒学を政治に役立て、西洋の実学を取り込む学問受容の方法を学び、西洋事情、海防、砲兵学、の知識を得たと思われます。特にモリソン号事件の顛末を知悉していたことは、後のアヘン戦争でイギリスの脅威を警戒する考えに繋がっています。

儒者でありながら青年期より「西洋事情」と「海防思想」を身につけていた象山が、『海防上書』を老中海防係の藩主に上書したのは三十二歳の時でした。